

新宿 ビズタウン ニュース

Shinjuku BizTown News

No. 43
令和元年9月20日号

目次

- 求められるものをつくり続けたい……………1-5
- インフォメーション……………6-8
- 新宿区中小企業の景況……………8

振動と文字で
情報を知らせる
時計型送受信機



視覚障がい者も
目覚ましも
いっしょに使える
カレンダー



求められるものをつくり続けたい

ものづくりを取り巻く外部環境は急速に変化しつつあります。環境・資源・エネルギーの変化や少子高齢化に加え、IoTや人工知能の進化・普及もあります。いま必要とされるものづくりやサービスとはいったい何なのでしょう？

新宿区にはものづくり産業支援策のひとつとして補助金制度がありますが、ここに紹介する4社は、いずれもその制度を利用し、ターゲットをしっかりと見据えたものづくり、サービス提供を行っています。



介護サービス事業所で
利用者の健康と
栄養を見守るアプリ



作業現場で
体への負担を
軽くする
サポートスーツ

箔押し技術を活かして バリアフリーカレンダーを製作

箔押しで培った技術で 点字印刷事業に参入

多様な印刷・製本関連事業者が集まる印刷文化の拠点・新宿区で、真美堂手塚箔押し所は昭和32(1957)年の創業以来「箔押し」と呼ばれる加工技術を事業の柱として歴史を重ねてきました。

「箔押し」とは伝統的な表面加工・光沢加工の技術。印刷技術としては本の装丁や案内状などに用いられますが、印刷物の需要が減る中でせっかくなの技術を活かす場が限定的になっていきました。そんな時、取締役社長の手塚博雄さんは「点字用の製版の普及版が開発された」という新聞記事を目に留め「それなら自社の箔押し機械でも何かできるのではないか」と考えたそうです。



取締役社長の手塚 博雄さん

すぐに日本点字図書館(新宿区高田馬場)に足を運び、点字に関する知識を学んだ手塚社長は平成11(1999)年、点字印刷事業に参入しました。



普段は書籍カバーへの箔押し加工をメインで行っている

点字を読めない視覚障がい者の ニーズに応える

視覚障がいには、まったく光を感じない全盲、ほんの少しだけ見える弱視があり、弱視の人の見え方はさまざま。また近年は、病気やけがなどによる中途視覚障がい者が多く、点字を読める人は視覚障がい者全体の、実は1割程度といわれています。

「それを知り、点字を読めない方々のために何かできないか、視覚障がい者と身近に接し、関係者と情報交換を重

ねるうちにカレンダーを作ろうと思い立ちました。そして公共施設などの案内表示に活用されている「浮き出し文字」に注目したのです」

こうして開発されたのが、数字部分を浮き上がらせて「視て読む」と「触って読む」を両立させた「バリアフリーカレンダー」。触って読みやすいことで定評があり、公共施設などで多く利用されている「フォアフィンガー書体」を採用し、平成27(2015)年度版から販売を始めました。

「晴眼者の利用も前提として、数字に色を付けたカラータイプ、白一色の白



バリアフリーカレンダーの白地タイプとカラータイプ
エンボス加工により触って読める立体的な文字です

地タイプの2種類を製作しました。白地タイプは一見真っ白ですが、横から見れば数字が浮き上がって見え、光の当たり具合で数字の陰影が浮かび上がります」

身の丈に合ったものづくりで 障がいを超えた相互理解に貢献

バリアフリーカレンダーの開発では、触って読める数字の「高さ」と見た目の美しさにこだわり、想像以上に手間がかかる商品になってしまったそうです。

「開発、製作に時間がかかり、売れるかどうかもわからない。そんな時に新宿区の助成金制度を利用してきて助かりました。利用者からの反響を元に、数字の下に曜日点を点字で入れるなどのバージョンアップを重ねています」

バリアフリーカレンダーは「視覚障がい者向け総合イベントサイトワールド」への出展で徐々に認知度を上げ、日本点字図書館のほか一部店舗を通じて販売されています。

「印刷関連業を柱として、身の丈に合った持続可能な会社を目指しながら、障がいのある人にもない人にも使っていただけのようなものづくりを心がけているのは、それが相互理解につながると思うからです。盲導犬の育成などを行う公益財団法人アイメイト協会へ売り上げの一部を寄付しており、これも続けていきたいと思えます」。

聴覚障がい者への優しいまなざしが 健全者の働き方も変える

自らの不便さを
製品開発の原動力に

株式会社東京信友は代表取締役の齋藤勝さんが昭和60(1985)年に創業。自身も聴覚障がい者である齋藤社長は従来の福祉機器に不便さを感じ、「音が聞こえない人が安心して暮らせるようにしたい」という思いから、平成10(1998)年、69歳で福祉事業部を立ち上げました。主な製品は振動と文字により情報を伝える腕時計型情報端末シルウォッチです。

シルウォッチは 福祉分野から産業分野へ

シルウォッチは小型の発信器とセッ



代表取締役の齋藤 勝さん



デザインが新しくなった腕時計型情報端末シルウォッチ。振動と文字で情報を伝える。

トで使用する仕組み。たとえば玄関に発信器を設置し、インターホンの音が記憶させておくと、来客時に発信器が反応してシルウォッチを振動させ、液晶画面には「来客」などのメッセージが表示されます。

当初は来客告知、電話やファクスの着信音、報知器の警報音、お湯の沸く音や赤ちゃんの泣き声などが想定されていましたが、シルウォッチのユーザー目線の機能が認知されるにつれ、工場や大型店舗などでも広く採用されるようになりました。機械・装置が発する様々な情報を管理者に伝えるツールとして幅広く活用されており、IoT化が進む環境の中で将来が期待されます。

こうした状況を受け、齋藤社長はシルウォッチにさらなる改善を加え、双方向通信や通信の見える化、データ化を実現し、国内の自動車生産現場や大手

スーパーなどへ販路を拡大しています。

製品ラインアップの充実

同社はこうした一連の業績が高く評価され、平成21(2009)年度バリアフリーユニバーサルデザイン推進功労者表彰で内閣総理大臣賞を受賞しました。そんな中でも福祉への思い入れが強い齋藤社長は産業分野での成功を追い風に、福祉への投資の手を休めることはありませんでした。そしてその成果は、聴覚障がい者用火災報知器、音のない目覚まし腕時計をはじめ、聴覚障がい者・高齢者に優しい情報端末キューブライトやシルピカなどとして続々と製品化されています。

ビジネスニーズにおける高評価は会社の業績の安定や研究開発費の確保に資するものですが、齋藤社長の視線は常に障がい者や高齢者に向けられ、開発意欲は90歳を迎えた今も衰え知らずです。

高齢者施設の人手不足に対応

「昨年からは新宿区の『新製品・新サービス開発支援補助金』(※)を活用し、ドップラーセンサーによる安否確認機器の開発を進めてきました。シルウォッチで培った通信システムと組み合わせ、人手不足に悩む高齢者施設等での見守りに活用するためです」

異常発生時には、室名、対象者を明確にした内容が、管理者が装着した腕時計型情報端末シルウォッチに直接伝わる仕組みで、通報を受けたシルウォッチは初めに強い振動で情報着信を知らせ、直後に最大20文字で情報内容を表示します。

「複数の管理者がシルウォッチを装着することで、ウツカリによる事故を防ぐことができます。この製品が人手不足に悩む高齢者施設で活用されることを望むとともに、これからも安価で使いやすく人の役に立つ商品の開発を続けていきたいと思っています」。



手のひらサイズのキューブライトは、光と音または光と振動でお知らせ



下部のLEDが点灯することで、4つの情報を識別できる光受信機シルピカ。火災警報時は音と光で異常を知らせる

姿勢を正して健全に働ける体をつくる 新発想のスーツ

働く人の作業負担を軽減する
サポートスーツの開発をめざす

有限会社ハマヤプリンシプルは、労働環境を作業着から改善したいと考え、江森浩司さんが平成14(2002)年に創業しました。

「経済産業省が推進する着用型ロボットスーツの開発などに関わってきましたが、モーターなどを使うロボットスーツは価格が高く、対応できる動作も限定的。現場のニーズに答えられなければ市場が広がらない」

そう考えた江森社長はアパレル業界で培った経験を活かしてベンチャー企業のアシストスーツのプロジェクトに参加、ゴムや布地の伸縮力を活かした製品開発へと軌道修正しました。



代表取締役の江森 浩司さん



ステイを着ると、背筋が伸び体幹が安定する

そして平成23(2011)年から新宿区の助成金を活用して腰痛予防効果のある「サポートスーツ」を自社開発。ところが、そこで新たな課題に直面したのです。

「腰が楽になったから働ける。それで本当にいいのだろうか…」

姿勢を正して 本来の身体を取り戻す

従来品に比べてファッション性を高めた「サポートスーツ」は一定の評価を得ましたが、江森社長は「楽に働けるようにしてあげる」のではなく「働ける身体にしてあげる」ことが先決だと思っ

ようになりました。

「腰痛で悩んでいる人の多くは姿勢も悪い。そこで建築資材メーカーのドライバーの動作データに基づき、新たにSTAYS®(ステイ)を開発しました。これまでのコンセプトとはまったく異なり、身体のゆがみを正して日々の作業を快適にするスーツです」

生地はポリエステル、ポリウレタンの混紡で、脊柱部分にカーボン製の2本のバーをクロスさせた製法で特許も取得。身体を動かすと腰回りのコルセットベルトに連動し、腹圧を補助して体幹を安定させ、身体的な負荷を軽減させる仕組みで、実証実験の結果も公表しています。

「五十肩や腰痛の軽減、歩行がスムーズになる、さらに人によっては成人病の検査数値の改善、肥満の改善などもみられました。展示会では試着したまま帰られるお客様が相次ぎ、こちらが驚いたほどです」

綿密なブランディング戦略で 海外展開も視野に

ステイはまず訪問入浴事業者に採用されたほか、酪農・畜産業従事者を手始めにJA全農を通じて全国展開を実現、カイロプラクティック・チェーンへの導入も決まりました。

「今年はしっかりと商品説明をした上での販売に力を入れ、来春を目標に自社ブランドとして発表する予定です」

す。女性を意識した健康的、スポーツ的な要素も取り入れ、ブランド価値を活かした販売戦略を立てていきます」

江森社長は開発段階から海外展開を意識しており、健康意識が高いEU、労働現場における安全への関心が高まるアジアなどが、将来の有力な市場になると考えています。

「経済産業省は『健康で元気に働ける企業』を実現する『健康経営』を推進し、生産性の向上、離職率の低下などの効果を期待しています。姿勢が改善されて健康になれば、よく眠り、よく食べられて、しっかりと働ける。お酒がおいしく飲める、週末に遊びに行けるといふモチベーションがあれば、離職率は下がり生産性は上がる。ステイは人間の尊厳の部分に働きかけることのできる商品だと思っています」。



ARMO®によるボードを抱える作業の動作解析。右がステイ着用時で、赤い部分(負荷を示す)が減っている



求められるものをつくり続けたい

デイサービスで食事・栄養管理が 容易にできるアプリを開発

自身の介護経験から
介護関連事業の「食」に関心



介護事業部(モッテコ事業部)部長の高瀬 誠さん

営業のアウトソーシング事業、広告代理業などを手がける株式会社フローの介護事業部は平成26(2014)年に設立されたばかり。デイサービス事業所に介護食品を届ける「モッテコ」、口腔ケア用品を提供する「オイテコ」、介護人材の派遣や研修を実施する「ヘルプマン」などの事業を展開しています。

「モッテコ事業部」とも呼ばれる介護事業部の代表者は高瀬誠介護事業部長。自身の祖父を介護した経験からシニア向けマーケティング会社で介護専門コンサルタントとして活躍後、現



6月にリニューアルしたばかりの「食べるデイ」の画面例。右はテスト結果のレポート。

職に転じたそうです。

「基幹病院が7つもある新宿区は、医療と介護の連携が進んだ先進地。そこで「最期まで口から食べられる街 新宿」をモットーとする「新宿食支援研究会(新食研)」に参加し、介護における食の大切さを再認識しました。モッテコやオイテコの提供先をデイサービスに特化したのは、在宅介護の高齢者が多く集まることで事業の効率化が図れると考えたからです」

デイサービスにおける 食支援を容易にするアプリ

次に高瀬部長が注目したのは、デイサービスのような通所事業所は、利用者の食事や栄養の状況を把握しやすい立場にあるという点です。そこで「新食研」の



タバマチフォーラム(第3回 最期まで口から食べられる街づくりフォーラム全国大会)の様子

協力を得てデイサービス向けの食事栄養管理アプリ「食べるデイ」を開発。平成30(2018)年6月にリリースするとともに新宿区の「新製品・新サービス開発支援補助金」(※)を活用し、バージョンアップに取り組んできました。

「スマートフォンやパソコンで操作できるアプリで、デイサービスの利用者を対象に、摂食機能、体力診断、栄養評価の3つのテストを実施するもの。そのテスト結果を現場スタッフが簡単に記録・データ管理することで歯科医や管理栄養士などと連携しやすくすることを目的としています」

摂食機能のテストはサララせんべいを食べて水を飲むだけ。椅子からの立ち上がりや5メートル歩行などの体力テストは、令和元(2019)年6月にリリースされたリニューアル版から身長・体重・BMIの測定だけで済むよう簡素化されました。

こうしたサービスは介護保険の「栄養スクリーニング加算」の対象となるため、デイサービスの現場での反響は大きく、アクティブユーザーは発売10カ月で100件を超え、その後も増加を続けています。

食支援を通じた 地域連携・街づくりに貢献

「食べるデイ」は「無料」をアピールして利用者を広げている段階で、収益の確保は今後の課題ですが、75歳以上の高齢者の健康データに注目が集まっているため、将来的には蓄積したデータを研究機関などに販売できる見通しです。

さらに今後の収益源と見込むのが開発中の管理栄養士向けの食事・栄養アプリ。介護保険の栄養スクリーニング加算、栄養改善加算などの対象になる内容で手堅いニーズが期待できそうです。

「9月1日に新食研が主催し、新宿区などが後援する「タバマチフォーラム」に実行委員の一人として参加しました。これからもこのフォーラムのテーマである「最期まで口から食べられる街づくり」に取り組んでいきたいと思っています」。

※新製品・新サービス開発支援補助金

新事業創出に向けた取組みへの支援として、新規性・市場性のある製品・サービスの開発に対して区が経費の一部を助成するものです。募集は例年4-5月。詳細は新宿区文化観光産業部産業振興課にお尋ねください。☎03(3344)0701

情報を知りたい

支援がほしい

制度を利用したい

産業振興課にお問合せください

新宿区産業振興課では、区内産業の振興と活性化を目指し、多岐にわたる支援事業を運営しています。以下はその一部です。区内企業の方々はもちろん、これから区内で創業をしようとお考えの方も対象です。経営に関する相談窓口としてぜひご利用ください。

【問合せ先】新宿区 文化観光産業部 産業振興課 電話03(3344)0701

社会保険労務士の派遣も可能です！

ビジネスアシスト新宿

さまざまな経営課題をお持ちの事業所や商店等へ、経営の専門家を無料であなたの事業所へ派遣します。従来の中小企業診断士派遣に加えて、社会保険労務士の派遣も行っています。

費用無料

【対象者】

新宿区内の中小企業者(全業種が対象)

【相談事例】

- 売上を伸ばすために、効果的な商品レイアウト方法を教えてほしい
- 海外展開や販路拡大がうまくいかない
- 新規顧客を増やすため、直接店舗をみながらアドバイスしてほしい
- 就業規則の作成・変更はどのようにすればいいの？
- 労働・社会保険の手続きがわからない

【申込方法】

所定の利用申請書に必要事項を記入のうえ、文化観光産業部産業振興課(西新宿6-8-2 BIZ新宿4階)までお持ちください。

※利用申請書は産業振興課の窓口または新宿区のホームページから入手できます。

※専門家の情報は新宿区ホームページにて確認できます。

※実務を伴う申請に必要な書類の作成や内部調整等の費用は、別途ご負担いただくことがあります。

参加しませんか

新宿ビジネス交流会 開催ご案内

新宿区では東京商工会議所新宿支部との共催による新宿ビジネス交流会を年3回開催しています。今回は「新事業の創出」がテーマです。事業展開のきっかけづくりにご活用ください！

【日 時】令和元年10月23日(水) 14:00~17:00

【テーマ】新事業の創出

【会 場】BIZ新宿(新宿区立産業会館)1階
多目的ホール<新宿区西新宿6-8-2>

【参加費】無料

【対 象】新宿区内外の中小企業、個人事業主

※詳細については新宿区のホームページをご覧ください。



前回の様子

10月1日(火)から
申請を受け付けます

中小企業展示会等出展支援補助金

販路拡大のため、区内の中小企業が参加する展示会・見本市等に出展する費用の一部を補助します。

後期募集

【対象者】新宿区内の中小企業者(全業種が対象)

【対象経費】出展小間料及び小間装飾費

【補助金額】国内:1件15万円まで(補助対象経費の2/3以内)
海外:1件20万円まで(補助対象経費の2/3以内)

【申込期間】令和元年10月1日(火)~令和2年3月13日(金)
ただし、予算額に達し次第受付を終了します

【申込方法】

交付申請書に必要書類を添えて文化観光産業部産業振興課(西新宿6-8-2 BIZ新宿4階)までお持ちください。

※その他詳細は「応募要項」をご確認ください。

「応募要項」と「交付申請書」は区のホームページからダウンロードできるほか文化観光産業部産業振興課でも入手できます。

イチオシ商品 商談会 in 新宿

**新規バイヤーも参加！
エントリー募集中！**

新たな販路開拓、売上増加に向けて貴社のイチオシ商品をバイヤーに提案してみませんか？

- 【日 時】令和2年2月6日(木) 開始時間等は後日参加者へ通知
- 【会 場】BIZ新宿(新宿区立産業会館) 1階 多目的ホール<新宿区西新宿6-8-2>
- 【対 象】食料品・非食料品に関連した企業
- 【参加バイヤー】エスカマーレ (株)ジェイアール東日本商事 シミズヤ
(株)千趣会法人事業部 (株)そごう・西武 (株)東急ハンズ
(株)東武百貨店 (株)日本百貨店 (株)ファミリーマート
(株)丸井グループ 丸正チェーン商事(株) (株)三越伊勢丹
- 【参加費】無料
- 【エントリー期間】9月6日(金)～11月1日(金)
- 【主催】興産信用金庫 西京信用金庫 さわか信用金庫 城北信用金庫 昭和信用金庫 巣鴨信用金庫
西武信用金庫 東京信用金庫 東京シティ信用金庫 日本政策金融金庫新宿支店 新宿区
- 【後援】信金中央金庫 東京商工会議所新宿支部



エントリー
申込みから
商談会までの流れ



エントリーシート提出
9月6日(金)～

エントリーシート提出締切
11月1日(金) 必着

商談可否決定
12月下旬

商談会実施
2月6日(木)

バイヤーの情報やエントリー方法については、新宿区のホームページをご覧ください。

今年も開催！

新宿産業観光フェア2019 しんじゅく逸品マルシェ

お出かけください！



開催日 令和元年11月29日(金) 10:00～19:00
11月30日(土) 10:00～17:00

会場 新宿駅西口広場イベントコーナー
<新宿区西新宿1丁目 西口地下街1号>



人気の「染色」「印刷」体験コーナー、今年もやります

新宿の産業や国際観光都市としての魅力を多くの方に知っていただくため、今年も『しんじゅく逸品マルシェ』を開催します。新宿ならではの素敵な風景の紹介や逸品販売を行います。また、昨年に引き続き「新宿ものづくりマイスター 技の名匠」による実演もあります。新宿区の地場産業である染色や印刷の体験コーナーと併せて、ぜひお楽しみください。

【主催】新宿区 / 一般社団法人新宿観光振興協会



今年もおいしいお店が並びます



「新宿ものづくりマイスター 技の名匠」が来ます

ご登録はお済みですか？

「新宿ビズタウンメール」をご活用ください

新宿区では、事業活動に役立つ区の産業振興施策や各種産業支援情報をメールで配信しています。登録は無料です。(通信料は別途かかります。)事業活動にご活用ください。

【配信内容】新宿区、東京都中小企業振興公社、産業団体からの産業支援情報

【登録方法】配信をご希望の方は、新宿区ホームページから、登録ページのリンクをクリックして手続きを行ってください

新宿ビズタウンメール



http://www.city.shinjuku.lg.jp/jigyo/sangyo01_002144.html

令和元年
4月～6月期

新宿区中小企業の景況

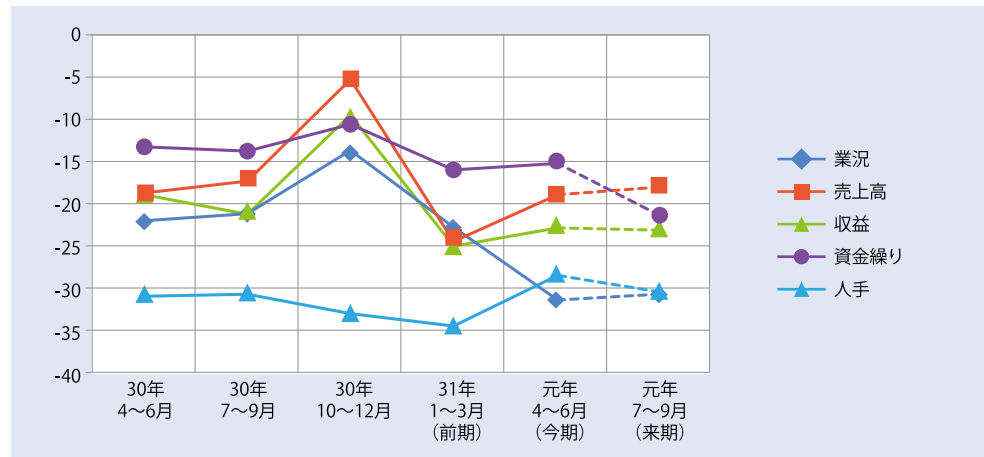
新宿区では区内中小企業に対する「景況調査」を年4回実施しています

1. 調査時期
2. 調査方法
3. 調査対象業種
4. 調査機関

令和元年7月上旬
郵送アンケート調査
製造業(35件)、印刷・同関連業(33件)、染色業(18件)、建設業(33件)、情報通信業(36件)、卸売業(34件)、小売業(61件)、飲食・宿泊業(72件)、不動産業(41件)、サービス業(73件)
※カッコ内は有効回答数
(株)東京商工リサーチ

※点線は来期の予想

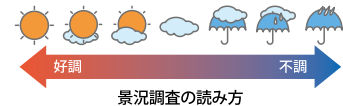
●項目別DIの推移(全体)



業況:経済全体の景気状態ではなく、個々の企業ないし産業の景気状況。
DI(ディーアイ):Diffusion Index(ディフュージョン インデックス)の略で、増加と答えた企業の割合から、減少と答えた企業の割合を差引いた数値のこと。DI値がマイナスの場合、業況・売上額・収益・資金繰りは不調傾向を、人手は不足傾向を示す。

●4月～6月期の特徴

業況DI(「良い」企業割合-「悪い」企業割合)は-31.6と、前期(平成31年1月～3月)の-22.8から悪化した。来期(令和元年7月～9月)の予想は-30.8で今期並みの厳しさが続く見込み。



●業種別調査結果(4月～6月期)

景況調査の詳細は、新宿区ホームページをご覧ください。

業種	景況
製造業	不調 (傘)
印刷・同関連業	不調 (傘)
染色業	不調 (傘)
建設業	好調 (雲)
情報通信業	好調 (太陽)
卸売業	不調 (傘)
小売業	不調 (傘)
飲食・宿泊業	不調 (傘)
不動産業	不調 (傘)
サービス業	不調 (傘)